

第73回国民体育大会 天皇杯・皇后杯 6位入賞

◎第73回国民体育大会～福井しあわせ元気国体～

期日：2018（平成30）年10月5日（金）～9日（火）

場所：福井市・福井県営陸上競技場

神奈川県選手団 天皇杯92点（第6位） 皇后杯51点（第6位）

順位	男女総合（天皇杯）		順位	女子総合（皇后杯）	
第1位	大阪	166	第1位	大阪	101
第2位	千葉	127	第2位	東京	73
第3位	京都	116	第3位	北海道	59.25
第3位	東京	116	第4位	京都	56
第5位	兵庫	64	第5位	千葉	53
第6位	神奈川	92	第6位	神奈川	51
第7位	福岡	79	第7位	兵庫	49
第8位	静岡	74	第8位	福岡	48



○神奈川県選手団 入賞者一覧表

種目	選手名	記録	順位
成年男子 400mH	松下 祐樹 (ミズノ)	50"72	3位
成年男子 走高跳	高張 広海 (日立 ICT)	2m22	2位
成年男子 三段跳	長谷川 大悟 (伊藤超短波)	16m08 (+1.9)	3位
少年男子 A 100m	三浦 励央奈 (法政二高)	10"76 (-1.4)	5位
少年男子 A 400mH(0.914m)	蔭山 彩大 (逗子高)	53"64	6位
少年男子共通 800m	久伊之 竜波 (相洋高)	1'52"74	1位
少年男子共通 三段跳	秋山 裕樹 (川崎市立橘高)	15m61 (+1.6)	2位
成年女子 400m	青木 りん (東邦銀行)	55"46	6位
成年女子 5000m	森田 香織 (パナソニック)	15'43"22	6位
成年女子 400mH(0.762m)	小山 佳奈 (早稲田大)	58"50	3位
成年女子 走高跳	青山 夏実 (日本女子体育大)	1m78	3位
少年女子 A 100m	三村 香菜実 (東海大相模高)	11"91 (-0.1)	5位
少年女子 A 400m	高島 咲季 (相洋高)	54"61	1位
少年女子共通 400mH(0.762m)	有賀 知春 (川崎市立橘高)	59"89	4位
少年女子共通 砲丸投(4.000kg)	大迫 晴香 (平塚学園高)	13m66	5位
少年女子共通 円盤投(1.000kg)	大迫 晴香 (平塚学園高)	40m34	7位

◎入賞者からコメントをいただきました

高張 広海 (日立 ICT)

7年連続で神奈川県代表として国体に出場させていただき、今期のシーズンベストで準優勝という結果でした。不調がここ数年続く中で一点でも多くという気持ちだけは忘れず、要所を抑える戦い方が出来たのではないかなと感じています。

少しずつ記録も上向いてきていると感じ取れましたので、来年再来年と記録向上に繋げられるよう、これからも日々精進してまいります。

三浦励央奈 (法政大学第二高等学校)

私は、福井国体に参加し、少年 A 男子 100m に出場しました。結果、5 位入賞することができました。振り返ってみると、自分が勝つことができるレースだったので悔しさは残りますが、初めて 100m で全国入賞することができたという点では嬉しさを感じます。インターハイの 200m では思うような結果が残せなかったので、その悔しさを空きシーズンで晴らせるようにと、夏季トレーニングを頑張ってきてよかったと思います。

蔭山 彩大 (神奈川県立逗子高校)

この度、二つの全国大会で入賞する事が出来ました。それに伴い、このような広報誌に自分の名を掲載して頂く事に対し大変感謝しております。さて、今大会の結果ですが、悔やまれる結果となった点、次へ繋がる走りが出来たという点がありました。

八月の高校総体では、準決勝でまとまりのあるレースが出来たものの、決勝は八位止まりと悔しい結果になりました。

十月の福井国体では目標の三位以内には届きませんでしたが、決勝では公式戦初めてとなるインターバル十三歩を前半で試み、高校総体からの課題であった前半スピードに乗ることが出来ました。

二つの大会を通じて来シーズン活躍する為のヒントが見つかりました。

クレイアーロン 竜波 (明德学園相洋高等学校)

国体とインターハイでは、800mに出場し、優勝することができました。インターハイは昨年より順位を1個上げ、国体は引き続き優勝しました。この結果に満足せず、通過点として今まで通り練習をして頑張っていきたいです。優勝できたことも沢山の方からの支えがあったからできたので、しっかり感謝の気持ちを忘れずにやっていきたいです。ありがとうございました。

秋山 裕樹 (川崎市立橋高等学校)

今年は去年よりも多くの経験を得ることができました。まず本年度から本格的に始めた三段跳びではU-20世界陸上に出場することができ、同年代の世界のレベルを感じる事ができました。また、インターハイではなかなか気持ちが入らず思っていた記録は残せなかったのですが、その分国体ではそれなりの結果と動きができ、今後に繋がりそうなことも発見でき、試合ごとに自分が成長しているのを実感することができた一年だったと思います。

青木 りん (東邦銀行)

まずは、今年も神奈川県選手団として国体に出場できたことを、大変嬉しく誇りに思います。4年連続で入賞でき、最低限のことはできたと思いますが、本来の自分の力が100%出せていればもっと上の順位を狙えただけに、悔しい気持ちが大きいです。

今回国体で得た経験と課題を持ち帰り、今後の糧にしていけたらと思います。たくさんの応援、サポート、本当にありがとうございました。

森田 香織 (パナソニック)

第73回福井国体の成年女子5000mに出場させていただきたいました。

今回で3度目の国体となりますが、そのうち2回とも入賞する事ができず、今回は3度目の正直という意気込みで臨み、初めて入賞することができました。少しでも神奈川県に貢献することができて嬉しい気持ちでいっぱいです。

また、神奈川県代表として呼んでいただき、今年以上に神奈川県チームに貢献できるような選手になれるよう練習に励んでまいります。

小山 佳奈 (早稲田大学)

今大会で3回目となる国体でしたが、なかなか神奈川のユニフォームを着て表彰台の一番上に上がる事が出来ていません。今年の国体は3位でしたが、今年度を振り返ると安定した年になりました。57秒、58秒がコンスタントに出てくるようになり試合でも上位を多くとれた年になりました。私にとって変化のあった2018年になりました。来年度はユニバーシアードを控えています。標準記録も高いですが大学入学時からの目標であるので冬季練習を上手く積み出場し入賞を目指します。

青山夏実 (日本女子体育大学)

今回初めて国民体育大会に出場させて頂き、自己ベストで3位入賞することができました。

失敗試技が多く競技内容は良くなかったですが、跳ぶ前に名前を呼んで頂いたり返事をして頂いたり緊張せず最後まで戦うことができました。来シーズン、もう一つ上のステージで戦えるよう冬季練習をしっかり積み、また神奈川県代表として選んで頂けるように頑張ります。応援ありがとうございました。

三村香菜実 (東海大学附属相模高等学校)

少年A100mで5位に入賞することができました。初日最初の競技ということで緊張もありましたが、スタッフの先生をはじめ選手の皆さんに応援して頂けたお陰で今回入賞することができたと思います。来年もこの舞台に立ち、お世話になっている神奈川県の方々へ結果で恩返しができるように頑張ります。

高島 咲季 (明德学園相洋高等学校)

インターハイ、国体で優勝することが出来、嬉しく思うと同時にサポート・応援して下さった沢山の皆さんに感謝の気持ちで一杯です。今回、初めて神奈川県代表に選んでいただきました。神奈川県選手団のあたたかい雰囲気の中でのびのび競技を行え、そして神奈川県に貢献出来た事は自分にとって成長に繋がる良い経験となりました。今の結果に満足せず、感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいです。有難うございました。

有賀 知春（川崎市立橘高等学校）

まずインターハイでは、予選・準決勝と緊張しきって自分の力を出しきれずにおわってしまいました。それを悔しんでいる暇もなく国体の選考会で同校の先輩と代表争いをし、勝ち取ることができた切符だったため、自信をもって試合に望むことができました。国体で入賞できたことは、日本一になるためのスタートラインにやっと立てたと思えたので、来年も夢へ翔んでいきたいと思います。

大迫 晴香（平塚学園高等学校）

私はインターハイ砲丸投5位、福井国体砲丸投5位、円盤投7位に入賞することが出来ました。この結果を手に入れることが出来たのは、一番に私を支えてくれる家族、指導して下さる先生、一緒に高め合ってくれる仲間、応援して下さいの方々のおかげです。

今年のシーズンは怪我から始まり、苦しいことの連続でした。私が大好きな砲丸を投げられないことはこんなに苦しくて辛いことなんだと改めて普段陸上競技が出来ていることの幸せさをこの怪我をきっかけに知ることが出来ました。

3年間、インターハイで日本一になることを目標に練習してきて、砲丸投は今年の自分を超えられず、円盤投は決勝落ちという結果で終わってしまい全然練習が足りなかったなと心の底から感じました。この負けた悔しさをバネにし、大学でも沢山のの方々への感謝の気持ちを忘れず、日々努力していきます。ありがとうございました。

◎各委員会の後半活動状況

<総務委員会>

第73回神奈川県陸上競技選手権大会が6月30日に終了し、各種目に入賞した選手が茨城県で開催の第91回関東陸上競技選手権大会に出場するための準備を7月上旬から始めた。7月11日の第2回総務委員会では出場する選手の確認作業を行った。8月18日には日産スタジアムで開催の“日清食品カップ”第34回全国小学生陸上競技交流大会に向けて日本陸連との新しい取組の打合せをしたり8月12日の主任会議の内容を検討したり準備を進めた。今年はJOの大会がいつもより2週間早い開催なので、9月14日から16日までの3日間で資格審査・プログラム編成を行った。準備として消耗品一覧表や医務係必要物品一覧表そして9月30日の袋詰め・主任会議等の準備に遺漏がないように準備した。11月24日には女性部の講習会が技能文化会館で行われ、今回はテーピングについて朝日山一男先生から貴重な実技とお話を賜った。有意義な内容だった。12月1日には広報誌第11号を発刊した。年々内容が豊かになるようそして皆様方に喜んで頂けるよう校正編集にも力を入れて取り組んだ。平成31年2月には登録事務説明会を県社会福祉会館で開催し、2月下旬にはワークピア横浜で平成30年度の年間反省会・懇親会を開催する予定で準備を進めている。

総務委員長 齋藤 裕昭

<競技運営委員会>

皆様今年一年ありがとうございました。下半期7月中旬実業団対学生、8月初旬には日清カップ少年少女大会、8月中旬国体選考会兼第2回記録会、9月に入り日本学生選手権、関東学生新人陸上大会、そして10月ジュニアオリンピックと駆け足で過ぎてしまったトラックシーズンでした。また、全国規模の大会では、事前の資格審査や主任者会議等大変お世話になりました。各審判員の方々の協力なくしては大会を終了することができなかったと思います。今年は例年になく出席率もよく、特に7・8月の暑さの中での審判活動は体力を消耗し大変な活動だったと思います。学生の大会ではその日ごとの終了時間が遅くお疲れになったことと思います。また、各都市関係の大会を運営しながらの協力大変感謝しております。

来年度は、ラグビーワールドカップ、再来年は東京オリンピック等陸上競技としては会場確保もままならない中、県内の大会を実施していかなければならず会場確保も難しい状態だと思えます。県陸協としても大会要項、タイムテーブル、開催日時、開催場所など選手がより参加しやすい大会運営づくりを目指し来年度に向けて競技委員会として話し合っていくつもりであります。まだまだ、これからロードレース大会・駅伝等続きますが、選手及び競技役員の方々の健康と神奈川県陸上競技協会の発展のためより一層一致団結して頑張りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

競技運営委員長 木村 尚由

<強化・普及委員会>

今年度も第73回国民体育大会（2018福井しあわせ元気国体）が10月5日（金）～10月9日（火）の5日間、福井県9.98スタジアム（福井県営陸上競技場）にて盛大に行われました。

選手団の構成は、成年ではリオ五輪やアジア大会、世界ユースなどの国際大会経験者やインカレ優勝者、少年においても今年度のインターハイ優勝者・入賞者が集い、男子17名・女子12名、精鋭29名での選手団での参加となりました。

男子では、少年共通 800m でクレイアーロン竜波君（相洋高 2 年）が 2 年連続優勝など 7 種目入賞。女子では、少年 A400m で高島咲季さん（相洋高 2 年）の優勝を筆頭に 9 種目入賞しました。今年度は女子の入賞数が多く、おかげさまで天皇杯 6 位、皇后杯 6 位入賞することができました。これもひとえに朝早くから夜遅くまで選手団を献身的に支えていただいたスタッフ、支援コーチの皆様、神奈川県から応援にかけつけてくれた県陸上競技協会の方々など、多くの皆さまからのお力添えのおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、いよいよ駅伝競走のシーズンとなってまいります。国体に続き駅伝においても陸上（駅伝）神奈川の名を全国にとどろかせるよう邁進してまいります。今後共、ご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。

強化・普及委員長 加藤 智明

＜財務委員会＞

事業計画		会議予定
7月	①日清食品カップの運営委員会への出席 ②日清食品カップ予算案の検討 ③各委員会と強化事業、中体連事業等の会計処理全般 ④各通帳の入出金の処理と通帳管理 ⑤フロンティア会計事務所との情報交換	・強化事業、高体連、 中体連会計担当者会議（16）
8月	①日清食品カップの予算執行と会計処理 （各会議の交通費支給業務と会計処理） ②日清食品カップの前日までと当日の会計処理全般 ③各競技会で発生した負傷者の把握と保険業者との対応 ④各通帳の入出金の処理と通帳管理 ⑤各委員会と強化事業、中体連事業等の会計処理全般 ⑥会計処理一部修正検討 ⑦フロンティア会計事務所との情報交換	
9月	①ジュニアオリンピックの運営委員会への出席 ②ジュニアオリンピック予算案の検討 ③各委員会と強化事業、中体連事業等の会計処理全般 ④各競技会で発生した負傷者の把握と保険業者との対応 ⑤各通帳の入出金の処理と通帳管理 ⑥会計処理修正後の処理周知徹底 ⑦日清食品カップ会計報告（陸連へ） ⑧フロンティア会計事務所との情報交換	
10月	①ジュニアオリンピックの予算執行と会計処理 （各会議の交通費支給業務と会計処理） ②ジュニアオリンピックの前日までと当日の会計処理全般 ③各委員会と強化事業、高体連、中体連事業等の会計処理全般 ④各通帳の入出金の処理と通帳管理 ⑤フロンティア会計事務所との情報交換	
11月	①ジュニアオリンピック会計報告（陸連へ） ②各委員会と強化事業、高体連、中体連事業等の会計処理全般 ③各通帳の入出金の処理と通帳管理 ④H29年度とH30年度の入出金状況の比較（11月現在） ⑤フロンティア会計事務所との情報交換	
12月	①H30年度の決算とH31年度予算に関する日程案作成、調整 ②各委員会と強化事業、高体連、中体連事業等の会計処理全般 ③各通帳の入出金の処理と通帳管理 ④フロンティア会計事務所との情報交換	

財務委員長 松尾 正弘

＜競技場管理委員会＞

神奈川陸上競技協会が関係する 7 月～ 12 月までの主な競技会は、全国小学生陸上の神奈川予選・全国大会、実業団・学生対抗陸上、日本学生個人選手権陸上、ジュニアオリンピック陸上等、全国大会や全国規模の大会が開催され、競技場管理委員会では用器具係、公式計測員、風力計測員等の担当が、競技会ごとの各係の業務手引書に従って、競技会が確実に、間違いのない運営ができる様に細心の注意を払い、競技開始前の準備を行ってきました。投てき競技の各種目では、個人所有の投てき物の持ち込みがあり、競技規則の規格に合っているかを、競技開始前に公式計測員が検査し、検査に合格した物について持ち込みを許可しています。

一つの競技会が無事に終わると疲れが出ますが、大きな事故、問題が起こらずに終わると「ホッ」とします。

今後も他の係との連携を密にして、競技運営に携わる一員として、委員会を構成する委員の技術向上に努めてまいります。

競技場管理委員長 鍵和田 実

◎平成 29 年度 栄章受賞者

- 平成 29 年度 中学優秀指導者章 小宮 昌志 (横浜市立今宿中学校)
＜主な育成選手＞田島梨紗乃 2012 全国中学校陸上競技選手権大会 100mH 2 位
- 平成 29 年度 高校優秀指導者章 齋藤 高志 (神奈川県立元石川高等学校)
＜主な育成選手＞岩崎 仁美 1998 全国総体・国体 円盤投 優勝
- 平成 29 年度 中学優秀選手章 米山 大晟 (横浜市立茅ヶ崎中学校)
全国中学校陸上競技選手権大会 四種競技 優勝 (四種競技県中学記録 2977 点)
- 平成 29 年度 高校優秀選手章 泉谷 駿介 (武相高等学校)
全国総体 八種競技 優勝 三段跳 3 位
国体 少年男子共通 110mH 3 位 三段跳 6 位
- 平成 30 年度 関東陸上競技協会感謝状
榎本 晃 神奈川陸上競技協会 医事部 副部長 (20 年)
鳥海 伸吉 神奈川陸上競技協会 財務委員会 副委員長 (10 年) 役員係主任 (8 年)
鍵和田 実 神奈川陸上競技協会 競技場管理委員会 委員長 (5 年)
技術総務 (5 年) 用器具係主任 (8 年)
- 平成 29 年度 秩父宮章
須藤 成臣 神奈川陸上競技協会 医事部 部長 (20 年)

～トピックス～

◎国際大会等に出場した神奈川出身選手の活躍について

- 第 18 回 アジアジュニアユース陸上競技選手権大会
期日・場所：平成 30 年 6 月 7 日 (木) ～ 10 日 (日) 岐阜県長良川陸上競技場
- | | | | |
|-------------------|------|--------|-----|
| 泉谷 駿介 (順天堂大学 1 年) | 三段跳 | 15m47 | 3 位 |
| 小田 大雅 (福岡大学 2 年) | 走幅跳 | 7m40 | 5 位 |
| 原口 凜 (国土舘大学 1 年) | 十種競技 | 6693 点 | 3 位 |
| 中村 紗華 (順天堂大学 1 年) | 三段跳 | 12m53 | 5 位 |
- 第 102 回 日本陸上競技選手権大会
期日・場所：平成 30 年 6 月 24 日 (金) ～ 26 日 (日) 山口県維新記念陸上競技場
- | | | | |
|--------------------|---------|----------|---------------|
| 吉村 玲美 (白鷗女子高校 3 年) | 3000mSC | 10'07"48 | 8 位 (日本高校新記録) |
|--------------------|---------|----------|---------------|
- 第 17 回 U20 世界陸上競技選手権大会
期日・場所：平成 30 年 7 月 10 日 (火) ～ 15 日 (日) フィンランド (タンペレ)
- | | | | |
|-------------------|---------|----------|------|
| 江島 雅紀 (日本大学 2 年) | 棒高跳 | 5m55 | 3 位 |
| 泉谷 駿介 (順天堂大学 1 年) | 110mH | 13"32 | 3 位 |
| 秋山 裕樹 (川崎市立橋高校) | 三段跳 | 15m40 | 10 位 |
| 西山未奈美 (松山大学 1 年) | 3000mSC | 10'00"49 | 9 位 |

江島雅紀君のコメント

この度、7月にフィンランドのタンペレで行われた U20 世界陸上競技大会に出場をし、銅メダルを獲得する事が出来ました。これは、日本人初の快挙という事でとても嬉しく感じています。しかし、自己記録の更新を目標に出場をしたのですが、そこに届かなかったことに対しては悔しい気持ちがあります。このような結果を残す事が出来たのは日頃より支援、サポートをして頂いている神奈川陸上競技協会様をはじめとする多くの財団様のおかげです。ありがとうございます。自分自身、今回で 5 回目となる国際大会の舞台で念願のメダルを獲得する事は今後の競技生活に大きく関わります。この結果に満足する事なく、更なる高みを目指してこれからも日々精進して参ります。これからも宜しくお願い致します。

西山未奈美さんのコメント

私は、7月10日から行われた U20 世界選手権 3000mSC に出場させていただきました。初めての国際大会でしたので挑戦をしに行くつもりで大会にのぞみました。決勝まで進む事ができましたが結果は 9 位ということで悔しさの残る大会となりました。こういった経験はなかなかできない事ですし、悔しいだけで終わらせるのではなく今後の競技力向上に向けて活かして行けるようにしています。

○第 18 回 アジア陸上競技選手権大会

- 期日・場所：平成 30 年 8 月 25 日 (土) ～ 30 日 (木) インドネシア (ジャカルタ)
- | | | | |
|------------------|--------|----------|-----|
| 舘澤 亨次 (東海大学 3 年) | 1500m | 3'49"40 | 9 位 |
| 堀 優花 (パナソニック) | 10000m | 32'42"73 | 7 位 |

堀 優花さんのコメント

8月25日にインドネシアのジャカルタで行われたアジアオリンピック大会に 10000m 日本代表として出場しました。結果は 32 分 42 秒 73 と 7 位でした。
練習や調整もうまくいっていたのでメダル、自己新を狙い臨みましたが初めてのオリンピック大会ということもあり、自分の 100 パーセントの力を出しきれませんでした。世界大会、オリンピック、どのような条件であれ結果を出せなければ意味がないと実感しました。自分の弱さがますます分かり、これからの試合に向け 1 つひとつ見直していきたいです。日本でのたくさんの応援ありがとうございました。

◎秩父宮賜杯第 71 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

期日：平成 30 年 8 月 2 日～ 8 月 6 日

場所：三重県伊勢市 三重交通 G スポーツの杜伊勢陸上競技場

○男子 800m 2 位 松本 純弥（法政第二高校） 1'50"13

私はインターハイ男子 800m に出場し 2 位になりました。順位については日本 1 を目指してずっと努力してきたにも関わらずあと一步、最後まで及ばず非常に悔しい結果となってしまいました。また、タイムに関しても県記録、高校記録ともに視野に入れてレースを展開するつもりが最低限の 50 秒切りという目標すら達成できませんでした。この悔しさは今後の試合で晴らしたいと思うのでまずはしっかりと練習から立て直して行きたいと思います。

○男子 800m 6 位 石川 昌樹（法政第二高校） 1'51"96

私はインターハイで入賞するという目標を高校進学と同時に掲げました。しかし、全中で予選落ちし全国大会の厳しさを知っていたので、それが夢のままで終わってしまうのではないかと考えていました。そんな中で、諦めずに夢を叶えることが出来たのは友人や家族の存在のおかげでした。だから、私は胸を張って表彰台に立ちました。表彰台から見た景色にはまず笑顔で祝福してくれるそうした人達の姿がありました。「ありがとう」その言葉を心に刻んだ瞬間でした。

○男子 4 × 400mR 1 位 法政第二高校 3'13"92

4 走がゴールした時真っ先に目にしたのは仲間の笑顔、泣き顔でした。その顔を見て暑い中サポートや応援をしてくれた仲間みんなで獲った優勝だと思いました。4 × 100m リレーの方で予選落ちをしてしまったこともあり 4 × 400m リレーにかけける気持ちはみんな強かったと思います。また、顧問の野村先生に「前半からしっかりと恐れずに走って法政二高らしい走りをして来い」と言われたのもあり、みんな思い切りの良い走りが出来た結果だと思います。本当に嬉しかったです。（須田 竜一）

○男子 4 × 400mR 7 位 相洋高校 3'18"45

私たちはマイルリレー優勝をするためにこの大会に挑みました。しかし、バトンを落とすミスによりマイルリレー優勝を逃がしてしまいました。チーム全員が同じ目標を掲げていたのでとても悔しかったです。来シーズンこの想いを忘れず、再びチーム全員が一丸となってインターハイに挑みます。そして、指導して下さっている先生、応援をして下さっている保護者の方々への感謝の気持ちも忘れず、取り組んでいきたいです。

○女子 200m 4 位 三村 香菜実（東海大相模高校） 24"02

全国高校総体の 200m で 4 位に入賞することができました。順位としてはとても悔しい結果に終わってしまいましたが、自分らしく楽しんで競技することが出来たと思います。中学生からの目標であったインターハイ優勝を来年は達成できるよう頑張ります。応援ありがとうございます。

○女子 400m 3 位 入江 明歩（県立湘南高校） 55"23

私にとって、今回の三重インターハイは初めての全国大会でした。入賞を目標に掲げて挑み、その結果 3 位という順位でゴールすることができたのはとても嬉しく思っています。また、全国優勝という言葉がそれほど遠い存在ではないと感じ、自信に繋げることも出来ました。このような貴重な経験をすることが出来たのも、多くの方々の支えがあったからだ強く感じています。この感謝の気持ちを忘れずに、更に上を目指して成長していきたいです。

○女子 1500m 6 位 吉村 玲美（白鵬女子高校） 4'19"75

○女子 3000m 7 位 吉村 玲美（白鵬女子高校） 9'17"67

常に目標と期待以上の結果を追求していこうという気持ちでスタートラインにつきました。3000m 決勝では 2 つの集団に分かれる展開になり、前についていきたい気持ちもありましたがリラックスして後半に備えました。ラスト 100m、1 つでも順位を上げようと最後まで諦めずにスパートをかけ、7 位にくい込みました。2 種目入賞出来ましたが、ケニア選手と勝負が出来なかったことが悔しいです。しかし全国でも戦えるんだと自信もついた 5 日間でした。指導者、トレーナー、チームメイト、小中学校の恩師、家族、多くの方々のサポートがあり今回の結果があると思います。感謝の気持ちを今後も忘れずに皆さんに応援して頂ける選手として、走り続けていきます。

○女子 5000mW 7 位 矢内 萌木（県立大和高校） 24'04"58

今回の伊勢インターハイは、出場するからには上を目指そうと決心していましたが、決勝へは 16 人が進める予選で 16 位とギリギリの結果でしたので、インターハイのレベルの高さを痛感しました。不安な気持ちも少しはありましたが、翌日の決勝には、予選のことは考えず新たな気持ちで臨めたことが自己ベストに繋がったのだと思います。歩形や体力の面で上位の選手と大きな差を感じたので、これらを課題にして毎日練習に取り組み、来年は優勝目指して頑張ります。

○女子4×100mR 4位 相洋高校 45"84

全国高校総体にて4×100mRで4位に入賞する事が出来ました。昨年は準決勝で敗退となってしまい、この1年間は悔しい思いをバネにし、チーム全員で切磋琢磨して頂きました。結果として神奈川県高校新記録を残す事が出来て嬉しく思います。支えてくださる方への感謝の気持ちを忘れずに来年の全国高校総体に向けて更にレベルの上昇したチームになれるように頑張りたいです。沢山のご声援を頂き有り難うございました。

○女子4×400mR 1位 相洋高校 3'40"99

昨年の準優勝から一年間、優勝を目標に日々練習を重ねてきました。不安やプレッシャーを感じることもありましたが、日本一になるためにチーム全員で高め合いながら練習を行い、走力の向上はもちろん、チームの雰囲気作りも大切にしてきました。チーム全員の努力がこのリレーの優勝に繋がったと思います。仲間や先生方、保護者の方々、サポートをしてくださった方々に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

○女子ハンマー投 4位 中務 真衣 (平塚学園高校) 52m02

最初で最後のインターハイは4位でした。一投目以降記録を伸ばすことができず、満足のいく結果ではありませんでしたが、ここまで導いてくださった顧問の先生、支えてくれた家族、チームメイトの協力があったからこそ入賞することができました。ここで経験できたことをこれからの競技生活に活かし、さらなる高みを目指してまた頑張っていきます。

○女子七種競技 4位 本多 美沙 (川崎市立橘高校) 4949点

高校入学時から全国高校総体で優勝することを目標にしていたので、4位という順位には悔しさもありましたが、それ以上に達成感を得ることができました。また、現地、地元問わずサポートや応援をしてくれた仲間、先生、家族などたくさんの方々のおかげで全国の舞台で楽しんで競技することができ、自分の力を出すことができました。今までで一番楽しい大会になりました。今後も日本一という目標を達成するためにまた頑張りたいです。

◎第53回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

期日：平成30年8月10日～12日

場所：駒沢オリンピック公園 陸上競技場

○岩淵 充貴 (県立伊勢原高校) 男子800m 1位 1'59"71 男子1500m 4位 4'21"00

陸上を始めてまだ日が浅く、全国大会という大きな舞台で自分はどこまで通用するのだろうかと不安でいっぱいでした。神奈川の代表として出場させてもらうからには悔いの残らないような走りを目指して決めていました。1500mでは上手く流れに乗れず悔しい思いをしましたが、800mでは力を出し切って優勝することができて嬉しかったです。応援してくれた両親や、ここまで育ててくれた先生に結果でも感謝を伝えられたかなと思います。

○田代 照 (日々揮学園神奈川校) 男子1500m 3位 4'19"27 男子5000m 4位 16'42"45



私は、第53回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会において、1500mと5000mに出場しました。これで3年連続となり、今年は1500mで目標にしていた優勝には届きませんでした。3位に入賞し表彰台には上がることができました。過去2年は力を出し切れずにいましたが、今年は5000mとの両種目で力を出し切れて良かったです。これも支えて下さった顧問の先生や仲間、両親に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も大学に進学し競技を続けていくので、この経験を次に活かしていきたいです。

○鈴木 博友 (日々揮学園神奈川校) 男子5000m 7位 16'51"97

私は、全国高等学校定時制通信制陸上競技大会に3年生になって初めて出場しました。当日は、会場の広さと全国から集まった選手、応援の人たちの多さに驚きました。5000mはとても緊張し、レース中も苦しく辛かったです。しかし、この大会に出場したいという夢に向かって日々の練習や強化合宿での20km走に耐え、鍛えられた自分を自信に果敢に戦い抜き、入賞できました。この結果は応援してくれた家族や指導して下さった顧問の先生のおかげなので感謝の気持ちでいっぱいです。



○中村 龍翔 (県立横浜明朋高校) 男子400mH 4位 1'01"13



僕は定通全国大会で個人種目4位、団体種目4位、5位で入賞しました。僕は1,2年生の時に怪我ばかりして苦しい時期が何度もありました。しかし陸上人生は高校までと決めていたので半年間、必死に病院でリハビリを続けました。県予選には治療が間に合い、優勝することができ、そして全国大会では入賞できました。僕はこれまで様々な人に支えられここまで来ることができました。応援して下さった皆様に感謝をしています。

○小菅 水暉（県立三浦初声高校） 男子 400mH 6位 1'05"48

私にとって部活動における最大の目標は、全国大会に出場することでした。1・2年生の時には跳躍系種目で挑みましたが、県予選止まりでした。今年は思い切って出場種目を変更し、具体的な目標タイムを設定して計画的に練習に取り組み、目標どおり全国大会への切符を手に入れることができました。全国では個人種目に加えマイルリレーの選手にも選ばれ、他校のリレーメンバーや他県の選手との交流など、全国大会ならではの貴重な経験をする事ができました。私は大会を通して強い気持ちを持つことの大切さ、人との交流の喜びなどについて学び、様々な経験が自らの成長につながったと感じています。

○高林 悠聖（生蘭専修高校） 男子 3000mSC 7位 11'50"71

今年度から初めて挑戦した3000mSCで不安も多くありましたが入賞することができ、とても嬉しかったです。今回の入賞は来年度へ向けての自信になったと共に、今後の課題について自分自身を見つめ直す良い機会になりました。現在は課題である体力・筋力面での強化を目標に日々の練習に励んでいます。次回の大会が高校生活最後の大会となるため、全力を出し切り3年間の集大成として競技をできるように頑張ります。

○吉野 潤（県立厚木清南高校） 男子走幅跳 6位 6m12 男子三段跳 2位 12m89

中学で一度は辞めた陸上を、高校でもう一度やり始めました。全国大会に出場することを目標に、イメージトレーニングに取り組みました。スパイクを買うためのアルバイトと、体幹を鍛えるためのスケボーも頑張りました。お金がなくてゼッケンも買えず、家にあった雑巾を胸につけるしかないと思っていましたが、学校で買ってくれました。良い成績を残せたのは自分だけの力ではなく、まわりの支えがあったからだと思います。感謝しています。

○山崎 晴人（県立厚木清南高校） 男子走幅跳 8位 5m88

今回の大会では悔しさはありません。万全の状態で大大会に臨むことができず、実力も十分に発揮できませんでした。走幅跳ではなんとか入賞できましたが、満足はしていません。僕は今、2年生なので来年度が最後のチャンスです。目標は大会記録を更新して優勝することです。来年こそは笑顔で終われるように、これまで以上に努力したいと思います。そしていつも応援してくれている家族、友人、先生方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

○岸 希（県立追浜高校） 男子三段跳 5位 12m57

私は高校から陸上競技を始め、同じ部の先輩たちに倣い全国大会出場という目標を立て、練習に励みました。日々努力をしていき、三段跳びで全国大会出場を果たし、5位入賞という結果を残すことができました。これまで支えてくれた顧問の先生、ともにがんばってきた先輩方、自分を奮い立たせてくれるライバル、いつも応援してくれる友人、そして家族に感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れることなく、来年は表彰台に登れるように努力していきたいと思います。



○浜田 大輝（県立神奈川工業高校） 男子砲丸投 8位 10m88

陸上部に入部し約半年という短い期間の中で、定時制・通信制陸上競技大会の円盤投げと砲丸投げの2種目で結果を出せたことを嬉しく思います。技術的な点を補うために外部の練習会に参加できたことは良い刺激となりました。練習時間が限られているため常に一投を大切にすることを意識し練習しました。

陸上競技に出会えたことで、弱い点を乗り越える方法を少し知ることができ、今後に向け自覚を持って練習に励んでいきたいです。

○永谷 亘（県立三浦初声高校） 男子円盤投 6位 26m20

私は、今年初めて全国大会で入賞することができました。一年生の時は県大会止まり。2年生で全国大会には出場できたものの、緊張の余り練習の成果を十分に出し切ることが出来ず予選敗退でした。今年は最後のチャンス、入賞をつかみ取るという強い気持ちをもって競技に挑みました。しっかりと練習を積み重ねてきたという自信があったからか、肩の力を抜いて投げることができ、結果、円盤投げで6位に入賞することができました。自己ベストを更新することもでき、とても嬉しかったです。この経験をバネにして、卒業後の進路を実現するため頑張っています。

○石川 玲奈（横須賀市立横須賀総合高校） 女子走高跳 4位 1m40

全国大会で入賞して、賞状を頂けたことはとても名誉のあることだと思うし、ありがたいと思っています。しかし、私は、この大会で3位以内に入賞をしてメダルをもらうことが目標だったので、目標まであと一歩及ばずとても悔しい気持ちでいっぱいです。なので今後は、この悔しさを糧に更に練習に力を入れて、来年、再来年こそは3位以内に入賞してメダルをもらうという目標が達成できるように頑張りたいと思います。

○大井 郁乃（日々揮学園横浜校） 女子走幅跳 5位 4m43

私は、高校では陸上をするつもりはありませんでしたが、先生に勧められ2年生から入部しました。日々の練習に力を入れ、県大会では思うような記録ではありませんでしたが、全国大会へ出場することができました。全国大会では、県大会の悔しさと夏の合宿の成果を全て出そうと頑張りました。結果は5位入賞。少し力が入りすぎたのか、うまく跳べませんでした。これからも練習を続け、来年度につなげていきたいと思っています。

○エクラリノ ジュアン（県立神奈川総合産業高校） 女子走幅跳 8位 4m30

今回、私は初めて全国大会に出場しました。個人種目の走り幅跳びでは、入賞はしましたが決勝で自己ベストを出すことができず少し悔しい思いもあります。

4×100mRでは、走る前は不安でしたが、1走目から4走目までうまくバトンを渡せることができ、良かったです。3位に入り、みんなと表彰台に立ち、メダルと賞状をもらうことができ、とても嬉しかったです。

来年は個人種目、リレーともに優勝できるように今後も努力したいと思います。

○東 瑠佳（大和商業専修高校） 女子砲丸跳 8位 7m86

去年の大会で3位に入賞し、表彰台の上での景色が忘れられず、今年度も表彰台に上がるために練習を積んできました。しかし、大会前に体調を崩してしまい、思うような練習ができない状態で挑んだ大会になってしまいました。結果は、8位と入賞することはできましたが、私にとっては悔しい大会になってしまいました。来年は、この反省を活かせるよう練習にもしっかり励み、3位以上の結果が残せるよう努力していきたいと思っています。

◎第45回全日本中学校陸上競技大会

期日：平成30年8月18日～21日

場所：岡山県 シティライトスタジアム

○男子400m 2位 日高 裕喜人（横浜市立荏田南中学） 49"27（県中学記録）

自分は、全日本中学校陸上競技選手権大会で入賞して、感じたことがあります。

それは、どれだけ周りの人に支えられてここまでこれたか、そして感謝の気持ちをいかに忘れてはいけないかということです。夏の県大会では思うような記録を出せず、不安でしたが、初心に戻り、楽しむことができたので、結果につなげることができました。大舞台でベストを更新できたことは自信になり、高校では更なる飛躍を目指し頑張りたいです。

○男子800m 6位 樋口 ワシリー（横浜市立末吉中学） 1'57"67

初めての全国大会は未知世界への旅のようでした。県大会の予選で初めて2分を切り、全中標準を突破するような選手が、決勝進出、ましてや入賞することなど想像もできませんでした。入賞したものの、優勝タイムまで3秒という実力差を目の当たりにし、苦杯を喫しました。しかし昨年末に膝を痛め、半年ほどそれを引きずり、思うような結果を残すことができなかった時期を思い返せば、今回の結果は妥当とも思えました。この度は、支えてくださった関係者の方々に感謝の気持ちと共に今後のさらなる成長を見守っていただければと思います。

○男子棒高跳 6位 池田 悠人（横浜市立上菅田中学） 4m20



全国制覇、これが私の中学陸上での目標でした。今年は2度目の全国大会出場ということで、色々な気持ちを持って戦いました。決勝では、自己記録も跳べず6位というとても悔しい結果で終わりました。しかし、この大会を通して自分のメンタルの弱さなどを改めて知ることができました。ここまで応援してくださった地域の方々や、指導してくださったコーチなどに恩返しが出来ていないので、高校でも全国制覇を目指していきます。これからも応援よろしくお願ひします。

○女子100mH 2位 関口 美桜（相模原市立相原中学） 13"96

全国優勝を目指して日々頑張ってきたので、準優勝という結果は悔しさで一杯です。日本一になるという事は簡単ではない、と改めて思い知らされました。

私がここまで頑張ることができたのは、一緒に練習をする仲間や常に競い合えるライバル、応援してくれる方や指導してくれる先生がいたからです。これからも、支えてくれる方々への感謝を忘れず、全国大会での優勝を目標に、日々努力していきたいです。

○女子四種競技 1位 安井 麻里花（横浜市立東野中学） 3069点（県中学記録）

私は、全日中で優勝したことで多くのことを学ぶことができました。その中でも、一番大切だと感じたのが「感謝」の気持ちです。今回の結果を出すまでに、チームメイト、顧問の先生、家族など、たくさんの人に支えていただきました。また、当たり前のように陸上に集中できる今の環境にも感謝することを忘れてはならないと思いました。今回学んだことや経験できたことを生かし、競技者としても中学生としても成長できるように頑張っていきたいと思っています。

◎第 34 回東日本女子駅伝競走大会

平成 30 年 11 月 11 日 (日) 12 時 03 分スタート

日本陸連公認「FTV ふくしま」マラソンコース 9 区間 42.195km

神奈川県チーム区間記録及び総合成績 総合第 5 位 2 時間 20 分 42 秒

区間	距離	氏名	所属	区間記録	区間順位	通算記録	通算順位	備考
1 区	6.0km	赤坂 よもぎ	埼玉医大 AC	19 分 32 秒	7	19 分 32 秒	7	
2 区	4.0km	清水 萌衣乃	東京農業大	13 分 54 秒	11	33 分 26 秒	7	
3 区	3.0km	柏木 渚	秦野高校	10 分 26 秒	4	43 分 52 秒	6	
4 区	3.0km	倉地 礼菜	田奈中学	10 分 18 秒	11	54 分 10 秒	8	
5 区	5.087km	長濱 夕海香	大阪芸術大	17 分 02 秒	4	1 時間 11 分 12 秒	6	
6 区	4.107km	菅原 優那	平塚江南高校	13 分 35 秒	3	1 時間 24 分 47 秒	6	
7 区	4.0km	長峯 野々花	三浦学苑高校	13 分 15 秒	4	1 時間 38 分 02 秒	6	
8 区	3.0km	齋藤 真歩	万騎が原中学	9 分 39 秒	8	1 時間 47 分 41 秒	6	
9 区	10.0km	青山 瑠衣	ユニバーサル AC	33 分 01 秒	3	2 時間 20 分 42 秒	5	

【上位入賞】

順位	都道府県名	記録
優勝	東京	2 時間 18 分 44 秒
2 位	長野	2 時間 19 分 07 秒
3 位	静岡	2 時間 19 分 26 秒
4 位	千葉	2 時間 19 分 58 秒
5 位	神奈川県	2 時間 20 分 42 秒
6 位	群馬	2 時間 21 分 11 秒
7 位	埼玉	2 時間 21 分 24 秒
8 位	茨城	2 時間 22 分 06 秒

◎ジュニアオリンピックの資格審査ならびにプログラム編成を実施

9 月 14 日 (金) ~ 16 日 (日) において、ジュニアオリンピックの資格審査ならびにプログラム編成作業を実施しました。



◎第 18 回総務委員会女性部講習会ならびに総会を開催

11 月 24 日 (土) 女性部総会、講演会が横浜市技能文化会館にて開催されました。

今回は、朝日山 一男氏講師による「最新のスポーツ障害の現状と予防について」講演と実技指導を実施しました。

◎吉田 秀志専務理事が功労章を受章

9 月 6 日 (木) ~ 9 日 (日) に開催された、第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会において、神奈川県陸上競技協会の吉田 秀志専務理事が功労章を受章されました。

